496 ^{67}Ga-DFO-DSA-Fibrinogenの心・大血管内血栓例および人工血管再建術後例への臨床的応用

高橋恒男、児島陽一、杉江　尚、広瀬敦男、中里龍彦、吉岡邦浩、柳澤　融（岩手医大・放射線科）

最近、血栓症の存在診断のため新しく開発された^{67}Ga-DFO-DSA-Fibrinogenを臨床的に心・大血管内血栓例、あるいは末梢動脈人工血管再建術後例に試み、その有用性を検討したので報告する。

対象と方法：対象は心内血栓４例(平均年令50.2歳)解離性大動脈瘤２例(41.5歳)、多発性肺梗塞＋両下肢静脈血栓１例(23歳)、末梢動脈疾患にて人工血管再建術施行13例(61.6歳)の20例で、装置はHITACHI-γ-VIEWHで撮像条件は、前処置は行わず中エネルギー用コリメータを用い、３ピーク、20%ウィンドで得られた計数を加算、静注72時間後、総カウント300Kで撮像した。なお、全例とも得られた血栓シンチ画像は同時に施行したCT像、またはIVDSA像と対比検討した。

結果：心内血栓例はCT像で確認された例でも描出されなかった。解離性動脈瘤は解離腔入口部での血栓を描出できたが、肺動脈血栓は描出されず、下肢静脈血栓は証明された。人工血管再建術後例は、下行動脈瘤切除例と人工血管閉塞の２例以外の全てで、人工血管内に(+)～(++)の集積をみとめ、再建術後経過の長短にかかわらず、血栓存在が示唆された。

497 Ｇａ-67-DFO-DAS-Fibrinogenによる心筋梗塞に伴う左心室内血栓の検出

鈴木輝康[1]、山崎俊江[1]、古西博明[1]、大中恭夫[1]、増田一孝[3]、大西英雄[3]、浜津尚就[3]、迫田悟[2]、尾藤慶三[2]、山崎武[1]、木之下正彦[2]、（滋賀医科大学放射線科[1]、）（同部[3]、）（同第一内科[2]、）

心筋梗塞では冠状動脈の血栓溶解療法に多大の関心が払われているが、梗塞領域の心筋のakinesis,hypokinesis,及びVentricular Aneurysm に伴う高頻度の左心室内血栓については、ややもすると関心が少ない。心筋梗塞発症後48時間以内の抗凝固剤投与群と非投与群について、超音波断層法およびＧａ-67-DFO-DAS-fibrinogen （Ｇａ-67-fibrinogen）を使用して左心室内血栓の有無を検討した。また同時に同血栓の存在診断について、両検査法間の差異を検討した。標識調整後のＧａ－67-fibrinogen２mciを静注後１時間以内に心プール像を、更に96時間後に血栓シンチグラムを撮像した。超音波断層法はＧａ－67-fibrinogen投与前または投与後に施行した。 超音波断層法で検出された左心室内血栓は全てＧａ－67-fibrinogenで描出できたが、超音波断層法で血栓陰性症例の中約1/6がＧａ－67-fibrinogenで血栓が描出された。Ｇａ－67-fibrinogen法により血栓の診断を行った所、抗凝固剤投与群では左心室内血栓は約2/7が検出され、非投与群ではそのほぼ全例に血栓の存在を認めた。

Presented by Medical*Online